

広島大学

令和6年度 広島大学光り輝き入試

総合型選抜Ⅱ型

出題の意図等

文学部 人文学科

地理学・考古学・文化財学コース

考古学

科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和6年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）

文学部人文学科 小論文問題 解答例又は出題の意図等

分野

考古学

問Ⅰ【出題の意図等】課題図書の見解力、論理的思考力、文章表現力などを問う。具体的には、弥生・古墳時代の鉄・鉄器生産の考古学的研究成果を概観し、下記の語句説明を適切に含みながら、その発展過程を社会情勢とともに論述しているかについて評価する。

語句の説明

「**鑄造鉄器**」炭素量2%以上となる銑鉄を熔解し、鑄型に流し込んで造形する鉄製品である。中国では、戦国時代に銑鉄を熔解して鑄型に流し込み、農工具を大量に生産した。弥生時代中期には、このような中国北東部で生産された鑄造鉄器、とくに鑄造鉄斧が多く舶載された。

「**鉄鋌**」中央部がくびれた長方形の鉄板で、両端は折り返しなどによって形態が整えられている。古墳時代中期から後期、朝鮮半島で生産された鉄素材がもたらされたとする意見が主流だが、貨幣説などもある。古墳時代中期以降、鉄鋌を使って鉄器を生産していたと想定される。

「**長方形箱形炉**」ここでは、古墳時代後期、吉備地方を中心に築炉された小型の長方形箱形炉について説明する。長方形、あるいは方形に掘りくぼめた中に木炭を敷いた炉床をもつもので、一辺が1m前後、高さ80cmほどに復元できる。当初は鉄鉱石を原料としており、日本列島で最初に普及したタイプの製鉄炉とみられている。送風管の先端となる土製羽口は出土していないため、送風設備が未熟な段階にあったものとみられる。

問Ⅱ【出題の意図等】課題図書にある日本の中世から近世の製鉄史の研究に関わるいくつかの問題や課題点について、正確に理解して解説し、自らの意見を論述していれば、課題図書の読解力をもち、かつ人文学を学ぶための基礎的な学力や論理的な思考力を併せもつものと判断する。